

出向く営農レポート

～トウモロコシの防除について～

訪問日：6月20日



南部営農センター
廣瀬 凱

今回は、豊明産直友の会の小原孝造さんのトウモロコシ圃場へ、生育と病害虫の確認に出向きました。

小原さんは約6反の畑でトウモロコシやいちじく、キャベツ、たまねぎなど、年間通して多品目の野菜を栽培し、豊明・東郷グリーンセンターなどへ出荷しています。

トウモロコシは、気温の上昇とともに病害虫の被害が発生しやすくなり、特にアワノメイガとアブラムシは要注意です。アワノメイガは幼虫が茎や穂、実に小さな穴を空けて内部を食害します。アブラムシは葉や茎などに口針を刺し汁液を吸って生育を阻害するほか、ウイルス病の媒介、排泄物ですす病が発生します。被害が発生すると収穫量に多大な影響を及ぼすため、適切な対策が必要です。



▼アワノメイガの被害の様子



トウモロコシを確認すると、アワノメイガの被害が見られました。アブラムシは確認できませんでしたが、一度被害が出て成長が遅れてしまったとのことでした。

防除の状況について聞くと、アワノメイガの防除は行っていましたが散布回数が少なく、アブラムシの防除は行っていませんでした。来年の栽培は防除暦を参考に、散布回数を増やすこととアブラムシに効果が高い薬を併用して防除するよう提案しました。

病害虫による被害を防止し、さらに品質の高い野菜や果実、穀物が実るようこれからも出向く営農活動を実施していきます。

アワノメイガ対策

フェニックス顆粒水和剤

- 希釈倍数：2000～4000倍
- 使用量：100～300L/10a
- 使用時期：収穫前日まで
- 使用回数：2回以内



アブラムシ対策

ウララDF

- 希釈倍数：2000～4000倍
- 使用量：100～300L/10a
- 使用時期：収穫3日前まで
- 使用回数：2回以内

